

自治体名	福島県
------	-----

女性の健康支援対策の概要

県民の健康を維持増進していく施策については、各保健福祉事務所における健康相談、思春期相談、出前講座、など各地域の実情にあった取組を行っている。

思春期から30歳代においては、ライフステージの中で女性の健康について何が重要であるか多くを知るべき年代であること、また、中高年においては、いかに情報を得、得た情報をどのように活かすことができるのかが重要であり、更年期における心身の安定、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防、メタボリックシンドローム予防に係る運動、栄養、生活習慣などの普及啓発及び子宮がんや乳がんの予防対策は重要である。

本県では、思春期からのライフステージごとの健康課題や、女性特有のがん検診受診啓発、中高年期のための健康支援講演会等、県医師会や、性差医療センターの専門医、保健衛生協会と連携し、専門的・総合的見地に基づく効果的な事業及び県内各地で幅広く健康教育を実施し、県民の健康支援のための事業を実施した。

自治体の特徴

福島県は、東北地方の最南端に位置し、地形的には、東に阿武隈高地、西に奥羽山脈が南北に走り、太平洋沿岸の浜通り地方と東北新幹線の沿線を中心とする中通り地方、奥羽山脈の西側の会津地方の三つに分けられ、それぞれの地方が気候、風土の異なる豊かな自然と歴史的・文化的遺産を有している。県内6地域と、2つの中核市に分かれる。

福島県の推計人口（福島県現住人口調査結果）人口構成・（H22.3.1現在）

	総数	男	女
人	2,038,598	989,267	1,049,331
割合(%)	100	48.5	51.5

15歳未満	281,728	144,207	137,521
15～64歳	1,249,505	634,624	614,881
65歳以上	505,934	209,486	296,448
75歳以上	269,717(再掲)	99,413	170,304

女性に関する健康課題

平成21年度学校保健統計調査報告書によると、痩身傾向児の出現率は女子では、10歳及び15歳の各年齢で前年より増加しており、12歳が4.11%で最も高くなっている。また、若年期の人工妊娠中絶実施率は、全国の中で15位に位置している。脳梗塞は全国の中で4位、心筋梗塞は5位と死亡率が上位に位置し、更に「乳がん」「子宮がん」の検診受診率が20%前後と低い状況にある。これらのことから、若年期の「やせ」、人工妊娠中絶、性感染症の予防、中高年期の更年期障害、骨粗鬆症の予防に関する正しい知識の普及、女性特有のがん検診受診率向上のため、自ら主体的に健康づくりができるように各年代における健康課題や対応策の普及啓発を行い、女性の健康づくりを支援することが重要となっている。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	1,130
(2) 中高年期における健康支援事業	50
(3) 女性のがん支援事業	3,250
計	4,430

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	思春期からの普及啓発
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	1, 130千円

事業目的

一人ひとりの女性が自らの健康に目を向け、日常生活の中で、主体的な健康づくりに積極的に取り組めるようになるために、特に思春期の健康課題、さらには将来の健康課題及びその対策についての女性のライフステージを網羅した「女性の健康」パンフレットを作成し、県内全女子中学生に対し配布すると共に、各家庭においても普及啓発が図られることを目的とした。

事業対象

県内全女子中学生（約3万人）及び保護者

事業実施体制・展開

- 1 「中学生から考える女性の健康～大切な未来のために～」パンフレット作成
- 2 教育委員会教育庁に、事業の目的、趣旨を説明し、各中学校への配布についての了解を得る。
- 3 性差医療専門医にも監修を依頼し、専門的な意見をいただきながらパンフレットの内容を検討する。
- 4 企画評価委員は、乳がん、子宮がんの専門医、性差医療センター専門医、中学校養護教諭で構成。
- 5 パンフレットは、女性のライフステージを網羅し、思春期から中高年期、女性特有のがんについて、中学生にも理解しやすい表現とし、各ページに「キーワード」を記載し、印象に残り、関心が持てるように工夫した。
- 6 各ページに「おばあちゃんナビゲーター」を登場させ、女性の先輩として経験を踏まえたコメントを述べ、記述内容に親しみやすい表現方法を取り入れた。
- 7 データなど本県の実情に即した内容とした。
- 8 パンフレットの構成は、①自分の将来・これからをイメージするためのメッセージ、②女性の身体の特徴、③思春期のこと、④妊娠出産にかかわること、⑤女性特有のがんに関すること、⑥更年期に関すること、⑦女性の美しさや健康の関係やバランスに関すること、⑧先輩や相談できる人達の存在（相談窓口掲載）
- 9 配布に際しては中学校に対し各家庭での普及啓発について依頼し、家庭に持ち帰り家族と一緒に健康について考える機会となるよう働きかける。
- 10 パンフレットについて県政番組で取り上げPRし、健康増進課HPに掲載。
- 11 アンケートを約300名に実施し理解度等について調査し保護者からも感想を自由記載するようにし、パンフレットの有効性を確認する。

事業目標・評価項目 及び その結果

中学生へのアンケート調査

- ① パンフレットの内容は理解できたか（はい79%、どちらともいえない20%、いいえ1%）
- ② パンフレットを見て自分の健康に関心が持てたか（はい72%、どちらともいえない26%、いいえ2%）
- ③ 健康について心配な時に相談できる人はいますか（はい77%、どちらともいえない19%、いいえ4%）
- ④ 将来の健康について考えることは必要と考えるか（はい78%、どちらともいえない20%、いいえ2%）
- ⑤ 女性の健康を考えるうえで参考になったか（はい67%、どちらともいえない32%、いいえ1%）

保護者からの感想（自由記載）中学生でも解りやすく詳しく記載されている（46人/110人中）

事業の工夫点

女性の健康パンフレットを作成するにあたり、性差医療センター医師、乳がん、子宮がんの専門医に参加いただき専門的な内容とするとともに、中学校養護教諭からは中学校の現状を踏まえた意見をいただきこれを反映させた。

また、パンフレットに掲載する内容は、他の関係部署で取り扱っている分野は省くなど、内容を精査し女性の健康づくりに必要な情報に特化し、パンフレットをよりコンパクトに作成し中学生に抵抗感が生じないように配慮した。

事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において、パンフレットの内容及び理解度、活用法等について検討した。

パンフレットの内容については中学生を対象として、女性のライフステージを網羅し思春期の頃から正しい知識を持ち、自分の健康は自分で守り、将来を見通して、健康の重要性を認識して生活するために参考となる内容となった。アンケートの結果において、パンフレットの理解度、健康に関心が持てた者、身近に相談者がいる者、将来の健康について考えることの必要性を認識している者の割合はそれぞれ70%以上と高い割合を示している。また、パンフレットが参考になった者は67%であり、半数を超えている。これらのことと、既存のパンフレットにはみられない構成となっていること等から、理解しやすく、充実した内容であったと評価でき、思春期、及び将来の健康課題とその対策について、中学生のみならず家庭においても普及啓発ができたと考察する。

活用法に関しては、パンフレット配布の際、各学校の状況に応じ、事業目的に沿った対応を依頼したが、年度途中の事業着手であり、時間的余裕が無く、各学校の授業の状況により活用方法が様々であり、事業の成果が十分に期待できるか判断は難しい。今後、継続してパンフレットを配布することができれば教材として有効に活用でき、より大きな効果が期待できる。継続した配布を希望する学校もある。

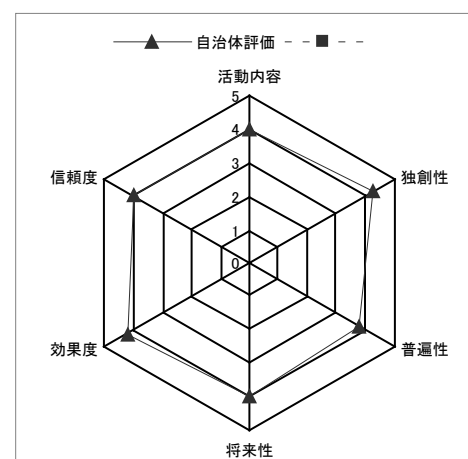
今後の課題

年度途中の事業着手で、パンフレット配布が年度末となったこともあり、各学校で特別に時間を割いた指導時間がとれない中学校もあった。授業で活用し、副読本として活用する等の調整が必要であった。

今後は、配布したパンフレットを、授業、健康教室、健康相談などに有効活用するよう、関係各課、関係機関と連携し普及啓発に役立てる方策を考えていく必要がある。

ホームページ	http://www.pref.fukushima.jp/kenko/josikenkou/joseikenkou1.pdf
照会先	福島県 保健福祉部 健康増進課 024-521-7640

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.0	中学生に焦点をあて、女性のライフステージを網羅したパンフレットを作成し配布した。アンケートの結果関心度は高かった。
②独創性	4.3	中学生に注目した点、理解しやすい内容、キーワードでの強調等、表現については独創性が高いと考えられる。
③普遍性	3.8	パンフレットの作成の仕方、若年者に対する理解のさせ方では全国に広めていける内容と考えられる。
④将来性	4.0	パンフレットの配布方法や、活用方法を示しながら、内容を検討しつつ、継続して作成配布されていくべきである。
⑤効果度	4.2	アンケートの結果からは理解され効果があったと考えられる。
⑥信頼度	4.0	アンケートの結果などから、信頼度は高いと思われるが、パンフレットを活用しての経年的な追跡調査が必要である。



(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	中高年を対象とした健康講演会
分野	■知識の提供 □健康相談 ■情報提供
事業費(千円)	50千円

事業目的

中高年期においては、いかに情報を得、得た情報をどのように活かすことができるのかが重要であり、更年期における心身の安定、寝たきりの原因となる骨粗鬆症の予防、メタボリック予防に係る運動、栄養、生活習慣などの普及啓発を行うことは重要である。女性のライフステージを理解し、特に中高年期で気をつけるべきこと、性差医療センターに関する情報の提供を行い、自ら主体的に健康づくりができるための支援を行う。

事業対象

中高年期女性及び一般県民

事業実施体制・展開

福島県保健衛生協会(委託事業)

保健衛生協会は毎年健康講演会を開催しており、21年度の健康講演会を開催するにあたり、女性のライフステージを理解し、中高年期の女性の健康課題や、適切な対処の方法についての情報提供をするため、性差医療センターの専門医による講演会を企画

実施月日：H22. 3. 30(10:30~12:00)

実施場所：郡山ユラックス熱海

講演：「女性の中高年期における健康支援」

講師：性差医療センター専門医

参集人員：約140名

講演会后アンケート調査を実施し中高年女性が留意する健康問題、性差医療についての理解について評価する。

事業目標・評価項目 及び その結果

講演会后受講者アンケート実施

- ① 女性ホルモンについて理解できた(94%) ② 女性のライフステージについて理解できた(94%)
 ③ 中高年期で気をつけることについて理解できた(95%) ④ 性差医療について理解できた(88%)
 ⑤ 性差医療センターを受診したいと思った(50%)

アンケートの自由記載の感想において、自分を見つめ直す良い機会となった、身体作りの大切さを理解できた、性差医療センターの情報提供が参考になった等の意見があり、効果的な講演会となった。

事業の工夫点

本県では、全国の中で脳梗塞は4位、心筋梗塞は5位と死亡率が上位を占めている。女性が自分の身体を知りしっ
かり向き合い、女性のライフステージや、中高年期の健康課題を理解し、性差または年齢に応じて必要な医療を受け、
主体的な健康づくりをするために、性差医療専門医による、対象を中高年期女性に特化した講演会を開催し、更年期
障害に留まらず、性差医療について理解を深めるための内容とした。

事業の効果についての評価・考察

アンケートの結果、女性ホルモンについて理解できたか、女性のライフステージについて理解できたか、中高年期
で気をつけることについて理解できたか、性差医療について理解できたかの質問に対して、88%～95%と非常に
高い割合を示しており、内容についての理解は得られたと評価できる。主体的に健康づくりを行うために、症状に合
わせて受診医療機関等を適切に判断し利用する等の効果的な行動が期待できる。

講演会の参加者は健康に対する意識が高い場合が多いので、理解力も高かったと思われるが、感想の中で、講演会
で話が役立つとの意見が多く記載されており、新たな情報提供の良い機会となり更に健康づくりに対する意識が向上
し、健診・がん健診の受診率の向上についての効果が期待できる。

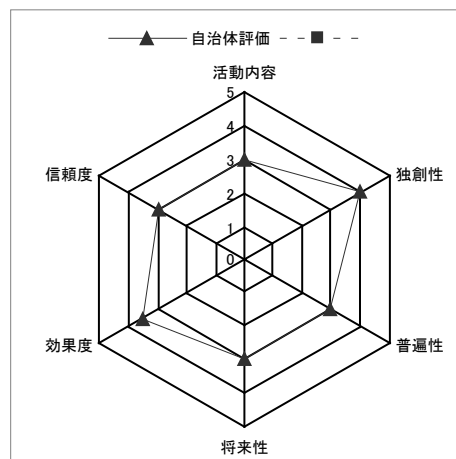
性差医療センターの周知につながり、受診を希望するという参加者も多くいたので、今後は更にその他の相談窓口、
診療機関等のサービスの利用の仕方などのきめ細やかな対応が必要であると考えられる。

今後の課題

中高年期の女性が講演会を受講したことで意識の変化や、情報や地域のサービスを上手に活用でき、心身共に安定
した状態で主体的に健康づくりが実践できているかは、経年的に追跡する必要がある。

ホームページ	
照会先	福島県 保健福祉部 健康増進課 024-521-7640

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.0	短期間の事業のため、講演会で終始した。
②独創性	4.0	中高年期女性に対して更年期障害にとどまらず、ライフステージ また性差を意識して講演を行ったことは評価できる。
③普遍性	3.0	中高年の健康についての啓発活動の中で講演会は必要である。
④将来性	3.0	中高年の健康について啓発活動を継続する上で将来性を持つ。
⑤効果度	3.5	アンケート調査から、中高年期女性が留意する健康問題など理解 は得られている。
⑥信頼度	3.0	アンケート調査のみからしか総合的判断材料はない。講演会に参加 した後の意識の変化など、活動・業績の裏付けが必要。



(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	女性の健康フェスティバル
分野	■啓発活動 □健康教育 ■健康相談
事業費（千円）	3,250千円

事業目的

若年期から更年期まであらゆる世代の女性が、自ら主体的に健康づくりに取り組めるよう、また女性特有のがんの検診受診率の低迷に対し「女性の健康フェスティバル」を開催し普及啓発を行う。検診を受診しやすくするための改善点についてアンケートにより調査し受診率向上のための参考とする。

事業対象

県内一般女性

事業実施体制・展開

福島県医師会（委託事業）

「女性のための健康フェスティバル」開催 ポスター・チラシを各市町村に送付、新聞折込広告、TVにて広報

【講演会（13:00～15:30）】 参集人員：約350名

講演1「増加する乳がん～乳がん検診受けていますか～」 乳がん専門医

講演2「ストップ・ザ・子宮がん」 子宮がん専門医

特別講演「乳がんが教えてくれたこと」

講師：宮崎ますみ さん

【女優・エッセイスト・ヒプノセラピスト（催眠療法士）】

【がん相談コーナー（10:30～12:00）】 相談者：計32名

◇乳がん相談コーナー専門医2名

◇子宮がん相談コーナー専門医2名

【検査コーナー（10:30～16:00）】 参加者：約100名

◇血圧測定、骨密度測定、乳がん触診モデル体験、血管年齢測定

講演会后アンケート調査を実施し、理解度、意識の変化等について調査し評価する。

事業目標・評価項目 及び その結果

参加者へのアンケート調査

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| ① 講演会の講師について「良い」91.1% | ② 講演の内容「良い」82.2%～91.1% |
| ③ 配布したパンフレットの内容「良い」91.1% | ④ がん検診の重要性が理解できた。「はい」97.7% |
| ⑤ 乳がん検診受診したことがある「はい」82.6% | ⑥ 子宮がん検診を受診したことがある「はい」88.7% |
| ⑦ 今後がん検診を受診したい「はい」95.8% | |

参加者の感想（がん検診を受診するための改善点、工夫）

医師・技師・スタッフ等が女性であってほしい、自己負担の軽減、土・日・夜間の検診の設定などを希望

事業の工夫点

本県の「乳がん」「子宮がん」検診受診率は50%の目標値に対し20%前後と低いことから、女性の健康について、地域の保健・医療の実情を良く理解している、福島県生活習慣病検診等管理指導協議会委員である「乳がん」「子宮がん」の専門医による講演及び著名人の体験に基づく講演会を開催するとともに、女性特有のがんに対する不安を抱える女性のために専門医によるがん相談コーナーを設置した。

事業の効果についての評価・考察

フェスティバルへの参加者の73.7%は40代～60代の女性であり、乳がん検診、子宮がん検診を受診したことのある者はともに80%を超えており、健康に対する意識の高さが伺える。アンケートの結果から、講演会の内容について「良い」と回答した者が80～90%、配布したパンフレットの内容が「良い」と回答した者が90%であり、講演の内容及びパンフレットを良く理解し、今後の健康課題に対して、適切な対応が可能であると判断できる。

また、がん検診の重要性が理解できた者は約98%であり、過去にがん検診を受診したことのある者が約83%～89%であったが、今後がん検診を受診したいと回答した者が約96%であり、増加していることから、意識の向上がみられていると判断でき、がん検診受診率向上についての効果が期待できる。

アンケートの自由記載において、乳がん・子宮がん検診に関しては、医師・技師・スタッフ等が女性であること、自己負担の軽減、土・日・夜間の検診の実施を希望している。また、受診促進のための啓発活動・PR活動の重要性を訴える者が多く、講演会の開催などを継続して行うことは効果があると考えられる。

今後の課題

健康への関心が低い、がん検診未受診者等に対し講演会等を開催するとともに、民間企業との連携等により更に普及啓発に努める等、各関係機関と連携強化を図る必要がある。検診受診の啓発活動の効果を評価するためには引き続き検診受診率などのデータで経過を追ってみたい必要がある。

ホームページ	
照会先	福島県 保健福祉部 健康増進課 024-521-7640

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.5	多数の参加者があり、地元密着型のフェスティバルであり、地域社会の健康意識の向上が期待できると考える。
②独創性	3.0	既に各地で同じような活動は行われていると思われ、型どおりの内容である
③普遍性	3.0	このようなフェスティバルは各地で行われていると考えられ本県としてはスタートがやや遅れたと思われる。
④将来性	4.0	啓発活動は継続することが重要であるので、継続する価値がある。
⑤効果度	4.0	アンケートの結果「良い」という評価が多く、効果は大きかったが、5～10年後の検診受診率などみる必要がある。
⑥信頼度	4.5	アンケートの結果「良い」という評価が多く信頼度は高いと考えられる。

